



那霸自然環境事務所
取組報告

石西礁湖自然再生協議会の発足

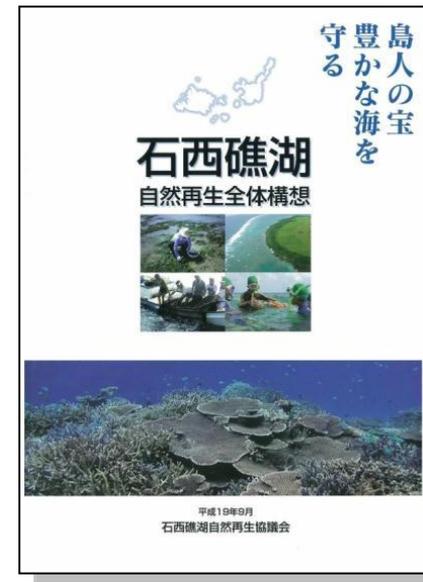
平成18年2月
石西礁湖自然再生協議会設立

石西礁湖のサンゴ礁の自然再生を
進めていくための組織

116個人・団体・有識者・地方公共団
体・国の機関など多様な関係者が参加
※平成29年現在

平成19年9月 石西礁湖自然再生全体構想 策定

◆石西礁湖の保全・再生を効果的に行っていくための
方向性を定めた



石西礁湖自然再生全体構想

石西礁湖自然再生協議会の体制

＜石西礁湖自然再生協議会＞

協議会委員：自然再生事業実施者、地域住民・NPO・専門家等、関係行政機関

＜協議事項＞

- ①自然再生全体構想の作成、②自然再生事業実施計画の協議
- ③自然再生事業実施に関する連絡調整など

《生活・利用に関する部会》

・地域住民の生活に必要な活動との両立を検討する場

ワーキンググループ(部会準備会)

【陸域対策WG】

- ・赤土等流出防止対策
- ・排水等対策

【海域対策WG】

- ・オニヒトデ対策
- ・水産資源管理
- ・海域の適正利用

【普及啓発WG】

- ・普及啓発項目の検討
- ・広報啓発システムづくり

【学術調査WG】

- ・サンゴ礁の現状把握
- ・科学的知見に基づく対策検討

＜協議事項＞

自然再生活動の実施に関する
テーマ別連絡調整など

→ **地域主導で運営**

平成28年度白化モニタリング調査結果

<概要>

調査方法: スポットチェック法

調査箇所: 35地点

調査時期:

①7月26日～8月17日

②9月29日～10月4日

③11月28日～12月21日

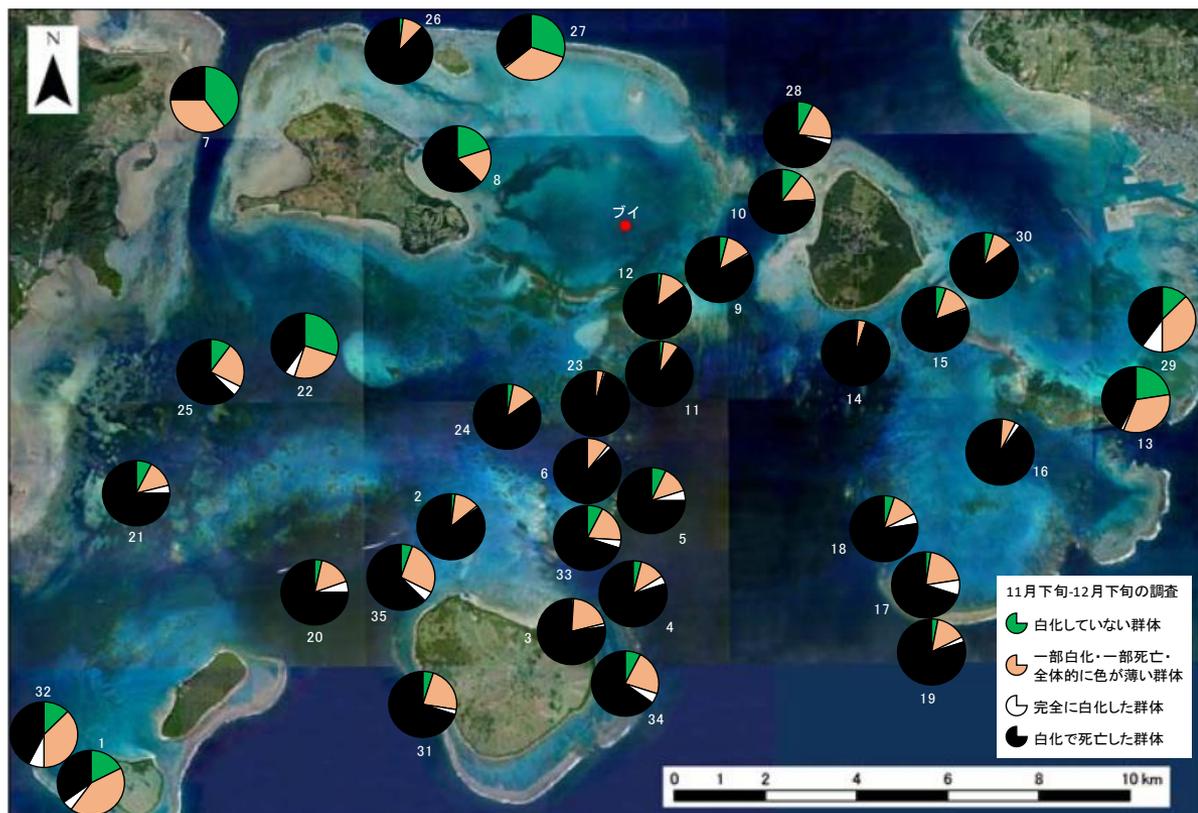
<3回目の調査結果>

被度: 12%

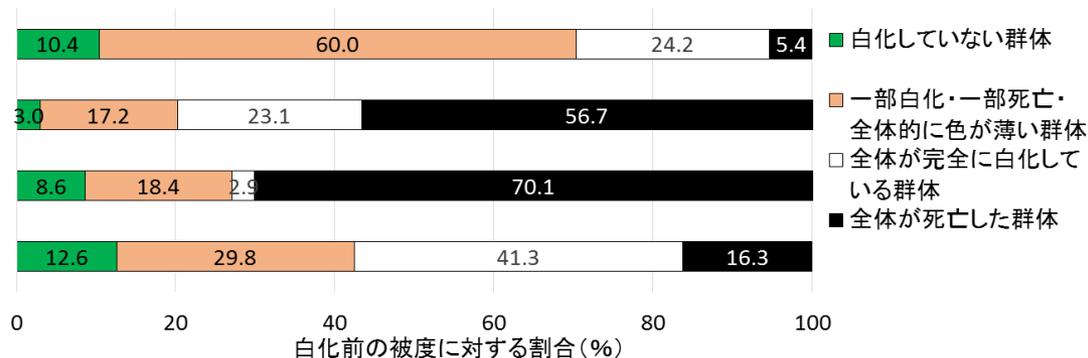
白化率: 91.4%

死亡率: 70.1%

(右図は地点毎の状況)



1回目調査
(7月26日～8月17日)
2回目調査
(9月29日～10月4日)
3回目調査
(11月28日～12月21日)
2007年の大規模白化
(9月2日～9月7日)



第20回 石西礁湖自然再生協議会

- ・平成29年2月19日(日)9:30～12:30
- ・沖縄県八重山商工高等学校 視聴覚室



【話題提供】

- 2016年サンゴの大規模白化について
(環境省)
- 石西礁湖白化現象におけるサンゴの種別差
(琉球大学・中村准教授)
- 海域における高水温とその気象要因
(気象庁沖縄气象台)
- サンゴの病気と白化(静岡大学・鈴木教授)
- 観光業(ダイビング業)からみたサンゴの
白化現象による影響(石垣島マリンレジャー
協同組合・屋良部代表理事)
- 魚がサンゴの回復に貢献する可能性
(西海区水産研究所・名波主任研究員)

【共有されたこと】

- 2016年の白化は過去最大の規模だった
- 白化が再び起きることを想定してサンゴの保全を考える必要がある
- 島民や観光客など多くの人に事実を伝え、それぞれのチャンネルでサンゴへの
負荷軽減対策を行うことが重要

自然再生の目標

【長期目標】(30年)

人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

【短期目標】(10年)

サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。



1970年頃の
石西礁湖のサンゴ礁



＜平成29年9月で全体構想策定から10年＞

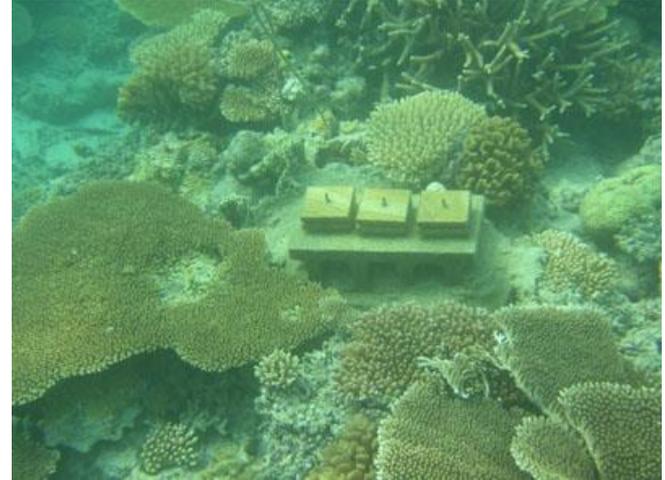
短期目標の評価時期にあたることから、これまでの取組を評価するとともに、白化が起こることを前提とした今後の対策等について検討を進めていく

環境省によるサンゴ礁保全の取組

◆サンゴ礁のモニタリング



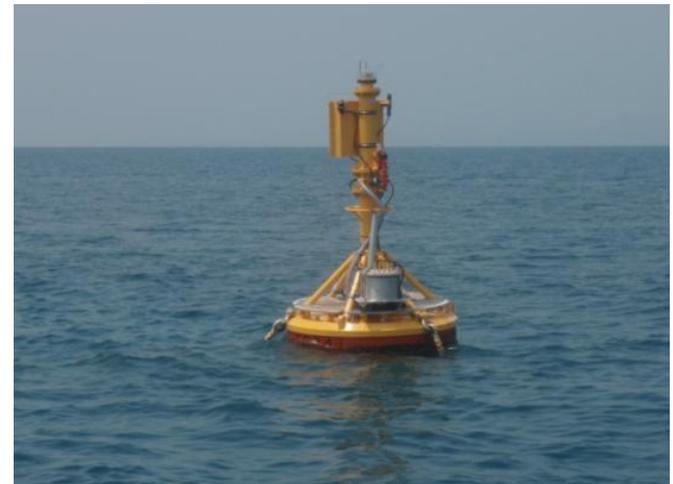
リーフチェック



定着板によるサンゴ幼生加入量調査



サンゴの攪乱要因のモニタリング
(例：オニヒトデ分布調査)



観測ブイによるモニタリング

環境省によるサンゴ礁保全の取組

◆着床具を用いたサンゴの移植

①サンゴ着床具



②着床具を束ねて海底に設置。移植できる大きさになるまで成長させます。



③サンゴを移植し、石西礁湖のサンゴが再生していきます

環境省によるサンゴ礁保全の取組

◆次世代を担う子供たちへの環境教育

- ・自然ふれあい行事(海の生き物観察会)の開催
- ・小学校の総合学習と連携したサンゴ学習(子どもパークレンジャー)
- ・小学校への出前授業 など



養殖サンゴの観察(子どもパークレンジャー)



機材合わせの様子(スノーケリング観察会)



地元小学校への出前授業